

ノリ養殖経過

坂口 研一

目的

三重県の黒ノリ養殖業の安定化を図るために、生産者に対して養殖環境についての情報提供や病害等の対策を指導するなど、きめ細かな対応が要求されている。そこでノリ漁場栄養塩調査、およびプランクトン調査を行いその情報を発信することにより生産者に対して現在の漁場の状態や今後の対応策についての情報を提供する。

方法

9月から3月までのノリ漁期中にノリ漁場栄養塩調査とプランクトン調査を実施した。栄養塩調査は伊勢湾のノリ漁場のうち、主漁場となる18測点の栄養塩とプランクトン発生状況を毎週火曜日に調査し、同日中に調査結果をFAXにより県内の関連漁協に送付した。分析項目は水温、塩分、溶存態無機窒素量、リン酸態リン量、プランクトン数である。これらの詳細については関連報文に報告したので、ここには概要を記載する。

結果

1. 今漁期の気象の特徴

気温は採苗期から育苗期にかけて低めで推移した。しかし秋芽生産期はかなり高めで推移した。1月中旬から2月上旬にかけては平年並みで推移し、その後高めで推移した。降水量は採苗期から育苗期にかけて少なめで推移した。しかし11月はかなり多めで推移した。12月以降は少なめで推移した。日照時間は採苗期から育苗期にかけて平年並みで推移したが、11月はかなり少なめで推移し、12月下旬から2月上旬にかけて多めで推移した。

2. 今漁期の海況の特徴

白子地先の水温は気温の推移とよく似た傾向がみられ、採苗期から育苗期にかけてかなり低めで推移した。しかし、11月下旬から12月中旬にかけてかなり高い状態で推移した。その後、冷凍網生産期は平年並みで推移した。比重は採苗期から育苗期にかけて平年並みで推移したが、11月上旬から12月中旬にかけてかなり低めで

推移した。その後も平年に比べ低めで推移した。桑名地区を除いた栄養塩量をみると、溶存態無機窒素（DIN）は採苗期に一時的に低下したものの秋芽生産期にはほぼ十分量存在した。冷凍網生産期の1月上旬から2月中旬にかけては十分量存在したが、その後プランクトンの発生に伴い2月中旬以降少ない状態が継続した。リンは採苗期に一時的に低下したものの秋芽生産期には十分量存在した。冷凍網生産期の1月上旬から2月中旬にかけては十分量存在したが、その後プランクトンの発生に伴い2月中旬以降少ない状態が継続した。

3. ノリ養殖経過

糸状体培養は順調に行われ胞子嚢の形成や成熟は良好であった。今漁期の採苗は順調に行われ、育苗も珪藻プランクトンによる栄養塩不足などはあったものの概ね順調に行われた。その理由として近年ではまれなことであるが、育苗期に水温が平年よりも低めで推移し、水温低下の停滞もなかった結果、ノリ芽の健全度が高い状態のものを確保できた。しかし、秋芽網生産期にはいと水温は平年より高めで推移し、特に11月下旬から12月中旬にかけて平年より1～2℃程度高めで推移した。また、同時に11月の降水量がかなり多く、それに伴い比重はかなり低めで推移した。さらに、栄養塩レベルも鈴鹿地区を除いて高い状態であったことから赤ぐされ病が蔓延する条件が全て整った形となり、赤ぐされ病の病勢が非常に強く生産に大きな影響を及ぼした。また、河口漁場では低比重と日照不足のため伸長不良の網が目立ち生産量が非常に少なくなった。冷凍網生産期は1月～2月の中旬にかけて海況が好転したことから質・量ともに好調な生産が行われた。しかし、2月中旬以降プランクトンの発生により栄養塩が不足し、色落ちの影響を大きく受けた。

年内の出荷枚数を昨漁期と比較すると平成14年漁期は9,274万枚であったが、平成15年漁期は4,221万枚と約46%に減少した。年内生産に関しては全国的に赤ぐされ病の蔓延等で大きく生産枚数を減少したが、三重県においては伸長不良と病害により全国平均以上に生産枚

数を減少した。単価は全国平均1,426円で平成14年度漁期の1,083円と比べて約32%の増加となった。三重県では1,272円で平成14年度漁期の1,020円と比べて約25%の増加となった。三重県の年内生産はこのように生産枚数の対前年比と単価の両面で全国に比べ低調で非常に厳しい生産となった。

次に漁期全体の出荷枚数は全国では平成14年漁期は98億1千万枚であったが、平成15年漁期は85億2千万枚と約87%に減少した。三重県では平成14年漁期は4億6,500万枚であったが、平成15年漁期は3億8,300万枚と約82%に減少した。単価は全国平均が10.29円で平成14年度漁期の9.29円と比べて約10.7%の増加となっ

た。三重県では9.97円で平成14年度漁期の8.98円と比べて約11%の増加となった。この結果、非常に厳しい生産状況の中で出荷金額としては前年の約91%を維持することができた。これは冷凍網生産期の1月～2月中旬にかけて好調に生産が行われ、その時期に単価も安定していた結果によるものであった。

関連報文

三重県科学技術振興センター水産研究部 鈴鹿水産研究室・三重県黒のり養殖研究会・三重県漁業協同組合連合会：平成15年度ノリ情報総集編